

上州武尊山 獅子ヶ鼻山

【日程】2017年3月11日～12日

【メンバー】栗原 L 飯田 竹澤

【地形図】藤原湖・鎌田

【記】栗原

もう10何年も前、仁さんに連れられて獅子ヶ鼻山に行きかけたことがある。その時はどんな尾根かも分かっておらず、結局途中で引き返しとなった。その尾根を思い出したのは、2月に飯田さんリーダーで隣のルートから上州武尊山に登ったときだった。隣にギザギザの尾根が見える。あれがまさに、あの時登ろうとしていた獅子ヶ鼻山の尾根だ！これはリベンジするしかない。幸い、飯田さんも案に乗ってくれ、竹澤さんもゲットしてメンバーが揃った。さて、どんなコースだろう・・・？

3月11日

風が轟々なっている。リフトを使わずに歩いて登るつもりだったが、天気の様子見て出発を遅らせ、結局リフトに乗ってゲレンデトップまで上がることとなった。ゲレンデトップから外れると途端に潜るようになり、早々にワカンをつけた。しばらくは軽いラッセルで進む。しかし、風も強いので、途中からアイゼン歩行とした。

獅子ヶ鼻山までは普通に尾根歩きで悪いところもない。が、獅子ヶ鼻山の山頂で、いきなり尾根が細くなり、向こうが切れ落ちていた。うーん、これは懸垂だなあ。しかし、付近に支点となる木がない。飯田さんが、雪を掘り起こして灌木を探そうという。私も、スノーボードや土嚢懸垂よりは、灌木の懸垂のほうが安心だ。ということで、狭い山頂で灌木の掘り起こしとなる。幸い、1mくらい掘り下げたところで、灌木に突き当たった。よし、これなら使える！シュリングをかけてザイルを通し、懸垂を行うが、私がザイルを思い切り絡ませてしまった。また失敗…。途中でもたもたして時間を食うので、一段下の平らなスペースで一旦ザイルを解き、飯田さんに下りてもらってザイルを処理してもらった。すみません…。2番手で竹澤さんが下り、ラストで再び途中から下りて、最後の急斜面を尾根上にトラバースしていくと、なにやら飯田さんが叫んでいる。どうやら雪においたヘルメットが、風で飛ばされてしまったらしい。懸垂の最中にワカンも落としてしまったらしく、竹澤さんが一言、「随分コスパの悪い山行ですね」。

さて、その向こうにも崖っぼいのが見え、どこから下りるか迷うが、先端まで行くと、ルンゼ状が下りられそうである。後ろ向きにクライムダウンし、更に急斜面をトラバースしていくと、ザイルを使わずに尾根に戻れた。そこからしばらくラッセルすると、おあつらえ向きに風が当たらない場所があった。当初は剣ヶ峰からグルッと回って戻るつもりだったが、獅子ヶ鼻山もなんとか登り返せそうなので、明日は往復コースとして、そこを天場とする。今日は天気が今ひとつだったが、明日は期待できそうだ。

3月12日

今日は終日アイゼン行動で、尾根上を脛～膝ラッセルで進む。剣ヶ峰への登りは少々急斜面となるが、晴れ渡っており気持ちがいい。登山道との合流点に来ると、川場スキー場が間近に見える。ただまだ朝早いので、他の登山者はいない。剣ヶ峰の山頂は我々の独占となった。

さて、天場まで戻ると、次は本日の第2のハイライト、獅子ヶ鼻山の登り返しだ。手前の岩場は、下りてきたとおりに急斜面をトラバースしてルンゼを登り返す。そして懸垂した岩場は、1ピッチ

目を竹澤さんが雪山初リード、グサグサの雪に苦戦しながらも、1段上の平らなスペースまで登りきる。その間に、飯田さんは前日落としたヘルメットとワカンの片方を回収してきた。それで順番が狂い、2ピッチ目はラストを登ってきた飯田さんにそのまま譲ることとなった。下から見た限りそんなに難しくないかと思っただが、フォローで登ると、最後が立っておりしかもグサグサの雪が今にも足元が崩れそうで、フォローでもとても怖い。飯田さんに譲っておいてよかった～。あとはゲレンデトップまで戻り、ゲレンデを下まで下るだけ。天気がいいせいか、獅子ヶ鼻山に向かう人が結構いた。獅子ヶ鼻山は人気があるんだなあ。

こうして無事リベンジを果たすことができた。あの時引き返したのも、今考えると正解だっただろう。コンパクトな山行の中に、ミニミニ雪稜も味わえ、楽しい山行だった。

【行程】 3/11 玉原スキー場ゲレンデトップ～鹿俣山～獅子ヶ鼻山～鞍部付近c 1
3/12 c 1～剣ヶ峰山～天場～獅子ヶ鼻山～鹿俣山～玉原スキー場



剣ヶ峰に向かう



そそり立つ獅子ヶ鼻山